コロナ禍における
宮城教育大学の障害学生支援

令和2年度「障害学生支援専門テーマ別セミナー
【コロナ禍における障害学生支援】」

宮城教育大学　しょうがい学生支援室　寺本淳志

概要

Ⅰ 前期の取り組みの概要の説明

:支援室の動き ＋ 大学としての動き

Ⅱ 関係者へのアンケート結果の報告

Ⅲ まとめ（課題と今後の展望）

Ⅰ　前期の取り組みの概要

- 授業開始まで (3~4月)①

・双方向・オンデマンド・対面各支援方法の検討開始

・4/14 全面オンライン(双方向&オンデマンド)が決定

-> T-TAC Caption(筑波技術大学)を利用し、遠隔で入力する支援方法に方針を固める

・教務課に授業形態に関する情報共有を依頼

・4/20 全教員に依頼文発出(授業形態の共有、当該学生が視聴する動画の支援室での確認、ノートテイカー不在時のための双方向授業の録画、映像への字幕付与)

Ⅰ　前期の取り組みの概要

- 授業開始まで (3~4月)②

・4/22 当該授業担当者への「初回講義の実施形態等についてのアンケート」実施(Google Form)

・ 遠隔支援講習会・オンライン学生交流会

-> これまで主たる支援方法ではなかった遠隔情報保障について学生たちに周知

+ 双方向授業の担当教員にも見学を呼び掛け、遠隔情報保障支援のイメージを共有

Ⅰ　前期の取り組みの概要

- 授業開始後(5/11~)①

・授業担当教員に担当支援学生の配置を連絡

・教員からの個別相談に対応：遠隔支援の情報提供
　(UDトークの活用やYouTubeの字幕付け 等)

・遠隔情報保障支援用の機材の貸し出し
　(聴覚しょうがい学生への文字表示用PC貸出 等)

・テイカーがつく講義については支援室でモニターを行った

Ⅰ　前期の取り組みの概要

- 授業開始後(5/11~)②

・5/22 教員向け遠隔授業説明会での情報提供と説明

:「学生の目と耳の健康管理」について(学務から)
.. 松﨑先生の実体験から-聴覚しょうがい学生への周知-
視覚しょうがい部会からもアイデア-> 全学での共有へ..

:聴覚しょうがい学生への情報保障について
..オンデマンド配信への字幕付け
..双方向授業への遠隔PCノートテイクの配置
..Google Classroomへの支援室職員や支援学生の参加
(授業や配信動画、配付資料等の確認のため)

オンライン授業を受講するときに・・・
あなたの目や耳を守りましょう

適切なモニターの位置

☆モニターと目の間は40㎝以上離す。

☆モニターを上から覗き込まないように、モニターの上辺が目よりも数㎝高い位置で設定する。

環境を調整

☆室内の照明をつけ、太陽光が画面に入り込まないようにカーテン等を閉める。

イヤホンやヘッドホンを利用するとき

適切な音量を

☆周囲の音声や雑音がわずかに聞こえる音量、またはその音量から少しだけ大きくした音量を目安にする。

☆遮音性の高いイヤホンやヘッドホンを利用する。

＜＜　あなたの目や耳の疲労を防ぐために　＞＞

可能な範囲で40分から1時間に1回は、10分程度の休憩をしましょう。
休憩中には、ヘッドホン等を耳から外し、外を眺めましょう。
そして、背伸びをするなど、身体の緊張をほぐしましょう。

Ⅰ　前期の取り組みの概要

- 授業開始後(5/11~)③

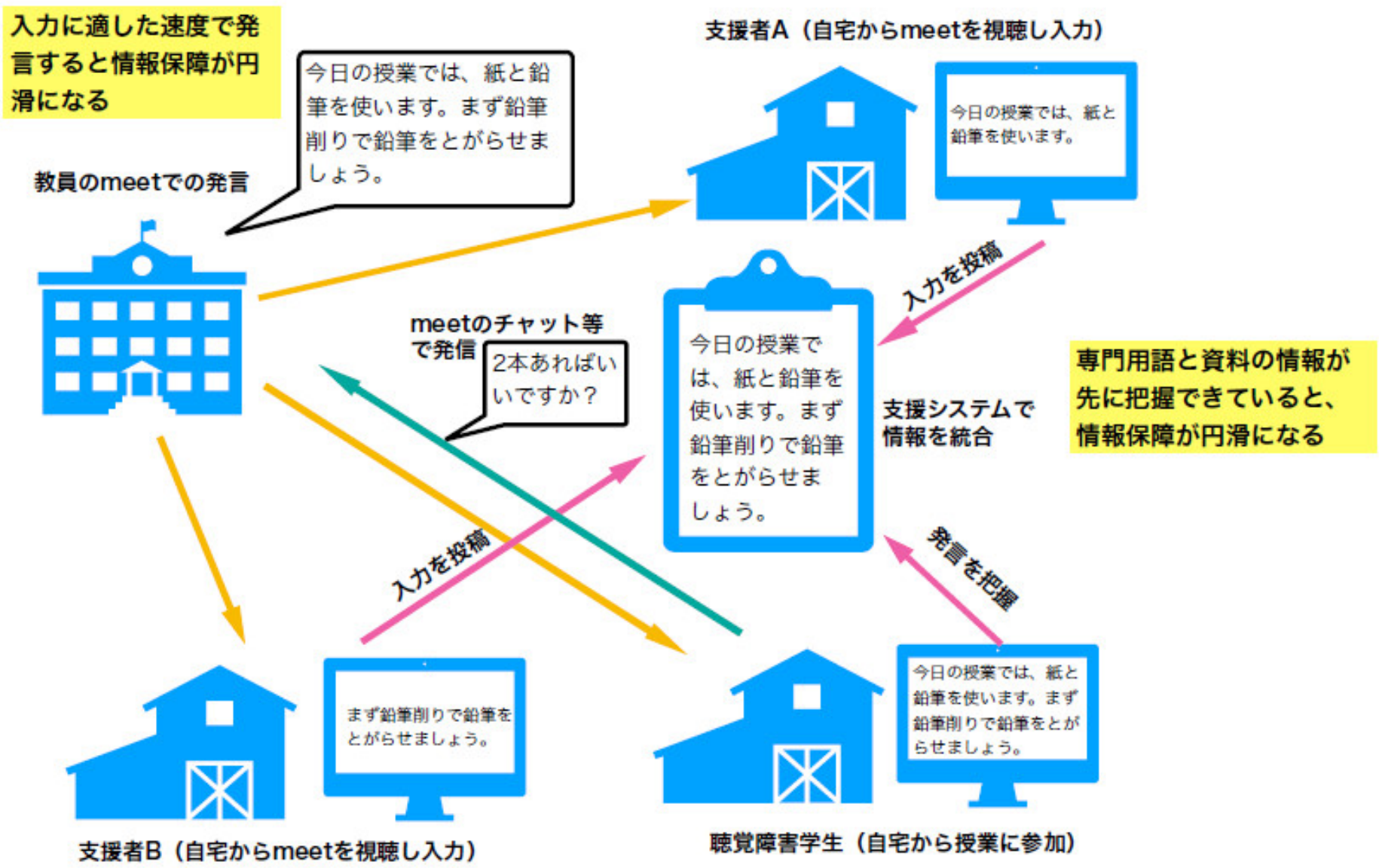
・6/10 メールでの配慮依頼文書の発出
:通常の配慮依頼 +

.. 「オンライン授業における情報保障の取り組みとお願い」(各授業形態において必要な支援と使用が想定される機器やソフト等の説明文書)

.. T-Tac Captionの説明資料

.. 遠隔によるリアルタイム情報保障のイメージ図

本年度前期の遠隔授業におけるリアルタイム情報保障の基本方法



Ⅰ　前期の取り組みの概要

- 授業開始後(5/11~)④

・6/10 全学生向け文書「目と耳の健康を守りましょう」の発出(学務から)

・8月 聴覚しょうがい学生面談(Google Meet + T-Tac Captionを使用) による前期の振り返り

・9月末 事後アンケート実施

・11/6 FD研修会「オンライン授業下における、よりよい授業実施のために~聴覚しょうがい学生対応を中心に~」(Meetで実施, その後オンデマンド配信も) - 全学に共有

Ⅰ　前期の取り組みの概要

- 遠隔授業における担当教員独自の対応事例①

[講義場面]

・Googleドキュメントを使った音声入力により、TAを活用して情報保障を実施(支援室からの支援学生派遣無し)

-> TAの活用のため、専門用語等に関わる情報保障の難しさが軽減される

・英語で行われる授業では、GoogleドキュメントとMeetの英語字幕による情報保障を実施。教員から支援学生に使用方法のレクチャーも。

-> 通常からICTを活用する教員の知識や技術の活用

Ⅰ　前期の取り組みの概要

- 遠隔授業における担当教員独自の対応事例②

[G.W等の場面]

・聴覚しょうがい学生がいるグループはチャットを使って文字でやりとりするよう教員から学生に伝達。

・グループで映像作成をするという課題において、各班で映像に字幕を付けるところまで教員が指示。

-> 学生側もICT活用を楽しみながら工夫が見られた

Ⅰ　前期の取り組みの概要

支援実施授業数・字幕作成本数(前期のみ)

年度		令和元年度	令和2年度
情報保障（授業数）	対面	58	―
	双方向(支援要：不要)	―	31(28:3)
	オンデマンド	―	22
	双方向とオンデマンド併用	―	2
	その他(課題提示など)	―	2
字幕作成 (本数)		15	97

Ⅱ　アンケート結果について

しょうがいのある学生への前期オンライン授業への対応について質問紙調査

(実施期間：2020年9月30日~10月9日)

目的：しょうがいのある学生が、オンライン授業を受講する際の利点と課題を、授業担当教員、しょうがいのある学生、支援にかかわった学生の対応状況を元に明らかにすること。

アンケート結果について

A：授業担当教員対象

送付59名、回答35名（回収率59.3%）

●内容

・前期の授業で対応したこと

・対応したことの中で大変だったこと、苦慮したこと

・授業形態（オンライン）がしょうがいのある学生への配慮となった事例

・しょうがいのある学生への配慮が他の学生や授業の実施に有効だった事例

・オンライン授業における配慮に関する意見　など

アンケート結果について

B:しょうがいのある学生対象

送付23名、回答12名（回収率52.2%）

.. 聴覚 5名、病弱 3名、肢体不自由 2名、他2名

●内容

・オンライン授業で『しょうがい』の面から見たときに「良かったこと」「良くなかったこと」

・対面授業との比較

・授業関係者（教員、受講生、支援学生等）とのかかわり方、依頼内容

・担当教員、受講生に期待すること　など

アンケート結果について

C:支援学生（ノートテイカー）対象

ノートテイカーMLでの周知　回答35名

●内容

・対面支援との比較

・支援中困ったこと

・支援の工夫、留意したこと

・担当教員、受講生に期待すること　など

A:授業担当教員の回答

①受講していた学生のしょうがい種

・聴覚 32件、肢体不自由 5件、
病弱（精神しょうがい含む） 2件、その他 2件

②前期の授業で行った対応

・映像への字幕付け　18件
・ノートテイカーをつけることの許可 16件
・受講の仕方の相談への対応 12件
・グループ発表、課題の取り組み方への配慮 9件
・その他　9件

A:授業担当教員の回答

③対応したことの中で大変だったこと、苦慮したこと

- 映像への字幕付け　13件
- その他　3件

A:授業担当教員の回答

④授業形態（オンライン）がしょうがいのある学生への配慮となった事例

・授業内容を記した資料の要点をチャット欄に逐一記した

・こちらの音声の伝達(理解)状況を随時確認した

・早口なのでゆっくり繰り返し話すように意識した

・連絡や内容を文章等にして配布した

・オンデマンドでは、自分のペースで動画を視聴することができ、見落としや聞き漏らしに各自対応しやすい

・病弱の学生は本人の体調に合わせて受講できたと思う

・肢体不自由の学生には移動等の困難が無かったと思う

A:授業担当教員の回答

⑤他の学生や授業実施にとっても有効だった事例

[話し方]

・早口を自覚して、気を付けるようになった

[授業理解の促進]

・字幕により、専門用語や同音異義語を正確に把握できた

・資料公開を早めにすることで学生が事前に確認できた

[学生の成長]

・G.W時のチャットでのやりとりがいい経験になった

・ゆっくり話すこと等の配慮を全体に伝えたことで、G.Wで学生同士励まし合う姿を確認できた

A:授業担当教員の回答

⑥オンライン授業における配慮に関する意見

[情報提供]

・スマホ用の翻訳アプリや、UDトーク等の情報提供(支援室HP等で)、及び学生による事前の理解

・字幕作成(YouTube)等、支援室で対応可能な支援の紹介

・学生と直接会えない分、情報共有の状況が不安だった

・普段からの周囲の学生への周知も必要

[配慮の限界]

・受講生全体を考えた授業内容なので対応できないことも..

・オンライン授業への対応だけで精一杯なところもあった

B:しょうがいのある学生の回答

②オンライン授業で、「しょうがい」の面から見た時に「良かったこと」

[情報保障]

・オンデマンドではほとんど字幕が付いていた

[授業内容の理解の深まり]

・オンデマンドは繰り返し見返せるのでよかった

[周囲の理解の広がり・深まり]

・授業担当者と直接やりとりできて認識が進んだ

[その他]

・体調管理のしやすさ/苦手な公共交通機関を避けられる

B:しょうがいのある学生の回答

③オンライン授業で、「しょうがい」の面から見た時に「悪かったこと」

[通信環境による情報伝達の遅れなど]

・情報過多で、見づらいことが多く負担が大きかった

[集団活動時の困難]

・G.Wのノートテイクが難しかった(対面と同様だが)

[心細かった]

・情報保障が追いつかないとき、急なアクシデントのとき、テイカーさんしか頼れないのは心細かった

B:しょうがいのある学生の回答

④対面授業との比較

- 【肢体不自由】周囲に人がいないのでよかった / 通学面の心配がいらないことはよかった
- 【聴覚】G.Wでチャットでやりとりできることはよかった（タイムラグが生じない）/ オンラインの方が積極的に発言しやすい
- 【病弱】体調管理のしやすさ / 体長が悪いときでも自宅で授業を受けることができるようになった

B:しょうがいのある学生の回答

⑤自分のことを理解してもらうために関係者(担当教員/受講生/支援学生)に行ったこと

- 【聴覚】指名から発言まで時間を取ってもらう、発言時に名乗る等の対応をお願いした / 全体のチャットで必要な配慮を説明した / 初回授業時にClassroomやZoom等にテイカーが入っていることなどをチャットで全体に連絡した
- 【聴覚過敏 聴覚情報処理障害】一部の授業では配慮してほしいことを受講生にLINEで頼んだ

B:しょうがいのある学生の回答

⑥オンライン授業への参加のために、担当教員に気を付けてほしいこと

- 【聴覚】特にリアルタイムでは早口になりやすいので気を付けてほしい / テイカーが見えないので忘れやすいかもしれない..繋がっているか毎回の始めに確認してほしい / チャットで「もう少しゆっくり話してほしい」と伝えても気付いてもらえないことが多い
- 【聴覚過敏 聴覚情報処理障害】早口にならないでほしい

C:支援学生の回答

①R2年度前期にノートテイクをした回数

・0回 8名、1回 12名、2~3回 2名、4回~ 13名

＊ 以下、下線部の回答者(27名)の回答について報告

②遠隔ノートテイクのやりやすさ(対面との比較)

・やりやすかった 4名

・やりにくかった 10名

・変わらなかった 9名

・わからない 4名 (今年度登録者3名含む)

C:支援学生の回答

③遠隔ノートテイク中に困ったこと (22名が[有])

[通信環境などのトラブル]

・テイク用のページが落ちてつながらなかった / 声が聞き取りにくいことがあった

[相手の反応が見えない / 支援の様子が見えない]

・聴覚しょうがい学生の反応が見えず、どうテイクするか迷った(省略するか逐語的に伝えるか 等)

・スライドのどこを話しているのかうまく伝えられなかった

・担当教員や他の学生に見えていないため、話す速度が速くてテイクが追いつかないことが多々あった

C:支援学生の回答

④遠隔授業時に工夫・留意したこと (14名が[有])

[ルール決め]

・始めに、どちらが入力するか・重複したらどちらが消すかなどを決めておいた

[ペア・聴覚しょうがい学生の利用のしやすさを考えた]

・思っているより早めに打ち始めるようにした

・長い文章にならないよう早めに確定させる

・G.W時、始めにメンバー全員の名前を記した

・英語のテイクでは、教員の発言は音声認識、学生の発言は手入力と使い分けた(学生の発音は認識されにくい)

C:支援学生の回答

⑤担当教員、受講生に期待すること

[話し方]

・ゆっくり話してほしい / 遠隔では資料を即座に読みにくいので「こそあど言葉」を避け、主語を明確にしてほしい

[その他]

・指名するとき、タイムラグが生じることを理解してほしい
・スライド資料を読み上げるときは教えてほしい
・Meetで「テイクの人大丈夫ですか?」と気遣ってくれたが、入力中は即座に反応できない
・要望をチャットに書くので、チャットを確認してほしい

Ⅲ　まとめ（課題と今後の展望）

[支援学生について]

・遠隔情報保障への対応の重要性と課題

.. 一方で、PCノートテイク可能な学生(本学では支援学生の内約50%)にしか依頼できない

.. 支援学生のネットワーク契約に依存し、費用負担の無い学生への依頼の偏りが生じた

.. 支援学生と利用学生お互いに顔が見えない中、お互いに思いを伝えることへの戸惑いも生じた

.. テイク後の振り返りも十分に行えないケースも

Ⅲ　まとめ（課題と今後の展望）

[授業担当教員について]

・オンデマンド映像教材の字幕付けニーズの急増

.. 教員の協力に頼る部分が大きかった

.. 支援室職員の負担も増大 -> 大学が対応を検討

.. 非常勤講師の場合等、配信後に「聴覚しょうがい学生から教員への連絡->支援室に依頼」というケースが複数。課題の締め切り延長など個別の配慮を依頼

-> 依頼内容の非常勤講師等への伝達の課題

・顔が見えないため早口になりやすかった

Ⅲ　まとめ（課題と今後の展望）

[その他]

・通信環境に左右される

・非対面状況での情報共有の限界

・大学から各教員への配慮依頼の方法(紙->メール)等、例年と異なる動きについて振り返りが必要

・<u>支援における基本的立場について</u>

..通常は、学生の主体性を重視し、学生-教員間の直接連絡が中心 -> 今期は支援室が教員と直接連絡を取らざるを得なかった

Ⅲ　まとめ（課題と今後の展望）

[次年度に向けて]

・今後、対面と遠隔が混在する中での課題(対面でのマスクの問題、支援学生の所在、肢体不自由学生の空きコマの居場所等?)の把握の必要性

・教育実習等での対応の振り返りと検討

・病弱領域では遠隔によるプラスの面も..今後は

・教員独自の取り組みや支援室への情報提供の動き

・教員の理解の高まり、話し方等への気付き

..遠隔だけでなく、対面においても活用の可能性